

Title	中国語を中心とした日中韓の敬意表現について：源氏物語桐壺巻の敬意表現を中心として
Author(s)	越野, 優子
Citation	詞林. 2018, 64, p. 77-63
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70611
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

中国語を中心とした日中韓の 敬意表現について

—源氏物語桐壺巻の敬意表現を中心として

越野 優子

1. はじめに

東アジアの翻訳研究は、日中（中日）翻訳、日韓（韓日）翻訳について、二言語間の双方向については既に先学の分厚い研究史がある。ただ日中韓の三か国語を包括的に論じたものはまだ多いとは言えない。

稿者は、この三か国語の差異についての包括的考察を、三か国語の差異が顕著に表れる敬意表現について、特に三か国語が最も接近していた古代の作品（源氏物語）を対象を絞り2017年から行ってきた^(註1)。

一般的に言われることとして現代中国語は敬意表現が減少し（現中国建立（1949年）後の思考の変容）、それに対して日本語（尊敬語・謙譲語・丁寧語をもつ）や韓国語（반말と敬語の明確な使い分け / 絶対敬語の世界）は多いとされるが、簡単にそう断言できるだろうか。

本稿ではこのような観点から、敬意表現の多寡の真偽・表現方法、それらを踏まえた翻訳の際の留意点に至るまでを、用例を基に考えたい。

2. 先学研究史と本稿に至る経緯

前述したように、日中韓の言語についての比較対照研究一般は全くないわけではない。①インタビュー方式で中韓の学習者の学習進度を調査分析したものなどは、現在進行形の口語言語のありようをよく表すと言える^(註2)。また翻訳論的視座からのものもある。権慧（2015）は、「筆者は2012年12月第4回ソウル・東京中国現代文学ワークショップにおいて、『ノルウェイの森』の中国語訳・韓国語訳を比較し、中韓両国とも意識から直訳への転換期に入っていると報告した。本稿は同報告の続きであり、現在訳本における直訳

中国語を中心とした日中韓の敬意表現について（越野）

化が進行中であることが伺える」（p179）とある。中国語と韓国語を列挙し比較対照した上で考察したものとしては、権慧の一連の論考が先駆者的存在である^(註3)。ただ日中韓が言語的・文化的に現在より接近していた古典の世界のものは、管見の及ぶ限りにおいて見つからない。注1はそうした観点からの試みであり、韓国語を中心に中国語を適宜対照しながらの考察で、結論としては以下の3点になる（以下、注1の結論部分と可能な限り重複しないよう更に考察を深めたものを記す）。

- ① 源氏物語の韓国語訳は、従来は与謝野晶子訳などの現代語訳を基にした翻訳しか見当たらなかったが、2008年金鍾徳訳『겐지이야기』（抄訳）を嚆矢に、2015年朴光華訳『源氏物語—韓国語訳註』（桐壺巻～）図書出版において、源氏物語の原文（古典日本語）からの翻訳がようやくみられるようになり、その意味で朴2015訳は画期的である。
- ② そして朴光華訳から抽出した用例では、古典日本語の中でも敬語の複雑さで知られる源氏物語の敬意の世界を、できる限り忠実に、“地の文”及び、“複数方向への敬語”についても省略なく訳されていた（注1 p58-59）^(註4)。
- ③ 注1で対照した中国語訳（豊子愷訳）では、桐壺巻から抽出した12例のうち原文にある敬意表現を全て韓国の朴光華訳が訳出していたが、中国語訳はこの12例の中でも11例には敬意表現が無かった。これは日本語や韓国語に比べて敬語が少ないとか、体系的な敬意表現を有しないとされる^(註5)中国語のあり方を表していると言えた。ただ唯一以下の用例が目された。

豊訳（1980）此时小皇子已睡，命婦禀道，本当拜见小皇子将详情复奏，但万岁爷专候回音，不便迟归

（稿者試訳：この時幼い皇子はもう眠っていた。命婦「小さい皇子にお目にかからなければなりません。そして帝に詳しく返事を申し上げなければなりません。でも陛下がずっとお待ちになっていますので、私の戻るのが遅れると都合が悪うございます」と申し上げる。）（注1 p55）

この用例での傍線部に敬意が現れているのである。ここでは天皇と光源氏（小皇子）への敬意をもった動詞が使用されている。注1は日韓を中心としていたので「中国語訳の敬意表現は天皇に直接かかわる場に出現する」(p55)とのみ結論付けておいたが、本稿においてはこの点を更に詳しく分析していきたいと考える。

源氏物語の中国語訳は、1959年に銭稻孫が「桐壺」巻を訳したのが始まりとされ、それに続いて豊子愷や林文月等の訳が生まれた^(註6)。新中国建立(1949年)後の中国では権威（それを表す敬意）への考え方が根底から変容したのであり、そうした国が源氏物語のような王朝小説をどのように訳したのか、そこから何がわかるのかを、韓国語とも対照させつつ以下考察する（中国語訳はこの銭訳や豊子愷訳および林文月訳、また韓国語訳は注1に引き続き画期的な朴2015年訳を使用する）。

3. 中国語訳の敬意の特徴

一人称・動詞・地名・語り手の視座の問題から—

本稿で扱う皇室等貴顕への敬語は、「あまり深く庶民に浸み込んでいない皇室・官僚等の文語的表現がたちまち消えていったのである」（注5王1990 30p）とあるのであれば、中国語訳版にも敬語は無くなったのではないかと予測をたててもよいであろう。よって本稿「1 はじめに」でも述べたように、一方で厳然たる王朝小説と最初から判明している源氏物語の翻訳に全く敬意が現れないのか、そのことは詳細に分析する価値があると考え。そこで現代の中国が皇帝時代の物語を描くときどうなるかを、まず皇帝時代を描いた映画の皇帝出現部分の字幕から見ることにしたい。

用例1 映画「赤壁（上）」（2008）（吴宇森監督 中国普通語）

曹操 「参见陛下」「陛下还要想多久」「皇亲国戚…」「凡人称王」「谢陛下」

汉献帝「丞相」「朕」「丞相曹操」（動詞に敬語は無し）と始まり（映画開始5分30秒）

—————ここで孔融が曹操の野望を遮り直訴する—————

孔融 「太中太夫孔融请奏」「恐今后招討逆的不是你丞相」（7分21秒）

そして異論を唱えた孔融が斬首される前「多谢丞相賜酒」（7分38秒）

映画の台詞も現実の会話とは異なるという点から小説内の会話と比較可能と考え抽出し比較してみた。傍線部が問題としたい箇所である。映画は2008年中国公開しており字幕も簡体字の普通語であるから、現代の中国が皇帝時代の物語を描くときどうなるかの用例となる。この例から見る限り皇帝への敬語は厳然とある（人称・動詞共）。皇帝から臣下（曹操）への敬語は人称・動詞とも無い。

ここで孔融が曹操に対して使用している「你」について考えたい。注5王（1990）に「欧米言語の影響で新しく出現した「您」「她」」（26p）とあるが、孔融はこの短い曹操とのやり取りの中で一度も「您」を使用していない。「丞相」という官名があるので、これが敬意を含むと考えられる。しかし最期の台詞（「多谢丞相賜酒」）からは曹操への敬意は「賜」から見て取れる。この用例1は中国→中国古代の皇室等貴顕への敬意表現の例である。こうした点を踏まえ、これが中国→日本古代の貴顕への敬意表現の例となるとどうなるかを、以下の源氏物語の用例から見ていくこととする。

用例2 源氏物語桐壺巻 1 冒頭

原文 いづれの御ときにか、女御更衣あまたさぶらひ給ひける中に・ ・ ・すぐれて時

めき給ふ、ありけり。（源氏物語・定家自筆本 玉上琢弥注 積 角川書店1964年初版）

豊子愷訳（1980） 从前某一朝天皇時代、后宫妃嬪甚多、其中有一更衣、（2013年出版）

林文月訳（1981修訂版） 不知道哪一朝帝王の時代、在后妃 众多女御更衣之中、有一位身分并不

十分高贵、・ ・ ・（2011年出版）

钱稻孙訳（1959） 是哪一朝代来，女御更衣好多位中间，有一位并非十分了不得身分，...

朴光華訳（2015） 어느天皇（천황）의 시대이었던가, 많은 노우고（女

御) 코우이 (更衣) 가天皇에게

시중들고 을 있었던 . . . 분 (方: 人への敬語) 이 있었다.

この用例2は桐壺巻冒頭である（一部分注1でも言及した）（以下用例での強調傍線部が敬意に関係するところ或いは比較対照したい箇所である。朴訳には必要に応じて試訳を付した）。これをみると桐壺更衣という、身分はそれほど高くないが帝の寵姫である存在に対し、中国語訳では銭訳と林訳に敬意がみてとれ、豊訳にはない。特に銭訳では桐壺更衣以外の全ての帝の寵姫に「位」を使用して敬意を表している。この点で銭訳は中国語訳の中で最もこの一文に対して敬意がこめられ、次が林訳、全くないのが豊訳となるといえる。

次に天皇についての記述は豊訳と朴訳が現代日本でも使用される「天皇」を訳出している。以上のようにこの部分は桐壺巻冒頭の一文で、冒頭とは読者に強い印象を与える箇所であるが、現代中国語が一般的には敬語が少ない言語であるとか、中国語の文語的な敬意表現は「たちまち消えた」（前述注5 王1990）などとは、簡単に纏められないことがここからもわかると思われる。

更に、この冒頭はもちろん会話体ではなく“地の文”（前述）である。しかし書き手はここで天皇の御代、天皇の妃たち、そして桐壺の更衣に敬意を表している。客観的な文章なら必要ないことであるが、本稿第2節でも言及したような“複数方向への敬語”にも関わる多面的な視線が表されていることを見逃すべきではない。書き手は、その場にはいない読み手を意識しながら書いている。読み手は当時の貴族社会の一員であり、その者たち（読み手）を意識するとき当然地の文であっても敬語は欠かせない。以上は古典日本語の周知のことであるが、銭訳と林訳には桐壺更衣に敬語が付されているのであるから中国語もこの部分を訳していることがわかる。この部分は、陳瑞紅が言及した「中国語における「丁寧語」の問題」ともかかわってくる^(注7)。陳はこの中で彭國躍（2002）を引用しつつ吉本ばなの『キッチン』の「あとがき」の例を挙げながら、

- ・「です・ます」文体で書かれている吉本作品の「あとがき」を題材にし、この文体をもとにした翻訳の文章も、日本語の「丁寧語」に現れる親し

みを感じさせるものであるので、現代中国語において「丁寧語」はまだ整然たる形式が確立していないが、存在していると仮定し検証した。その結果、(中略)中国語にも丁寧語として扱われる要素が存在しているものと思われる(注7 p46)。

と述べている。この観点からすると林訳・銭訳も単なる地の文ではないものを内在しているといえるのではないか。これについては桐壺巻末が、語り手の顔が現れた場所として著名なので後に再度言及することとする。

用例3 源氏物語桐壺巻2 光源氏の誕生

原文 世になく清らなる玉のをのこ皇子さへ生まれ給ひぬ。

豊訳 更衣生下了一个容华如玉, . . .

林訳 产下了一位玉一般俊美的男嬰。

銭訳 早诞生了一位人问少有, 清秀如玉的皇子。

朴訳 옥 (玉) 과 같은 화자 (皇子 = 겐지 (源氏) 마저 태어났던 것이다.

用例3は珍しく韓国語の朴訳には動詞「生まれた」も含めて一切敬意が無い。ただ皇子が主人公の光源氏であることを(皇子 = 겐지 (源氏))を使用して補充説明している。中国語訳が敬意表現の点で分かれる。注5王(1989)が「位」と「个」について述べており、「个」が事物にも人間にも使える汎用性を述べている。ここではやはり豊訳が「位」を用いていない点で敬意を皇子に記していない。

用例4 源氏物語桐壺巻3 更衣が他の妃の控え所の前を通過して参内する

原文 あまたの御方がたを過ぎさせ給ひて, . . .

豊訳 必須经过许多妃嫔的室。

林訳 得许过许多后妃的殿前。

銭訳 必得路过好几位的内前。

朴訳 많은 뇨우고 (女御)、코우이 (更衣) 의 방 앞을 그냥 지나쳐서 (試訳: 多くの女御や更衣の局をそのまま通り過ぎて)

用例4は更衣が帝に参内するためにいつも多くの寵姫たちの局の前の廊下を渡らねばならず、それがまた彼女たちの強い恨みを買うという箇所であるが、この寵姫たちに敬意を表しているのは「位」を使用している钱訳のみである。朴訳も방（居室）という場所の言葉を用いたせいか敬意は記されていない。

用例5 源氏物語桐壺卷4 桐壺の更衣の発病

- 原文 その年の夏、御息所はかなき心地にわづらひて、まかでなむとし給ふに、．．．
- 豊訳 这一年夏天、小皇子的母亲桐壺更衣觉得身体不好，．．．
- 林訳 这一年的夏天，做了母亲的更衣觉着身体有些．．．
- 钱訳 那年夏天、贵人自觉病状恍惚，．．．（注；原文“御息所”称呼更衣）
- 朴訳 그해의 여름, 어린 皇子의 母인 미야수도고로 (御息所 = 키리쭈보 노코우이) 는
웬지 모르게 健康을 해치게 되었기에, ．．．
(注：御息所・中略・「皇子を生み奉つた方」)

用例5では注目すべきはやはり钱訳の敬意表現であろう。「贵人」と記したうえで注記まで付してある。御息所の意とは「御子をうみ奉りてのち、御息所と號するやうに、此の物語にはいづくにも見へたり」^(注8) p10と古注釈の頭注が述べるように、皇子の母を称する特異な呼称である。钱訳と朴訳はそれを記し、更に両者とも注でその意味を補足説明している。朴訳には敬意は無いが前掲の補足説明（「皇子を生み奉つた方」）で敬意を補っているということになるうか。

用例6 源氏物語桐壺卷 5 桐壺の更衣の帝への最後の対面の場

- 原文 女も、いとみじと見奉りて、．．．
- 豊訳 那女的也深感隆情，断断续续地吟道，．．．
- 林訳 女方听了这个番话，十分感动，断断续续地喘着气说，．．．
- 钱訳 妇人听惊惶不选，．．．奏道，．．．

朴訳 女子 (키리쭈보노코우이) 도 天皇의 마음을 정말로 애 처롭게 생각하시어, . . .

用例6は一部注1でも言及した。ここで原文はじめ多くの訳が「女」と記しているのは源氏物語固有の表現形式である。源氏物語は恋の和歌を詠む場面で「女」とのみ称し、身分も他も全て捨ててただの男女として向き合う。故にこの個所は各訳ともその原文のあり方に沿っているとも見えるが、注1で触れなかった钱訳の分析をここで追加すると、この钱訳の解釈の深さが見えてくる。その他の中国語訳は更衣の心情を敬意表現を用いず記しているが、钱訳は動詞に敬意が付き（「奏」）、畏れ多い思いになったと記している。そして钱訳のみ「女」ではなく「妇人」と記している。この個所はこの原稿に引用した原文に付された現代語訳（玉上琢弥 1964）にも「女」とされているくらいであり、钱訳が現代語訳であれ原文であれどちらをみていたとしても「女」にしがちな場面である。それでもそうしていないのは、钱訳が原文等を考慮した上でなお、婦人という形で敬意を人称にも動詞にも付したいという観点からと考えられる。なお、朴訳も太線部のように敬意表現（試訳：考えられて）となっている。

用例7 源氏物語桐壺巻 6 悲しみに眠れぬ帝を見る靛負命婦

原文 命婦は、まだ大殿籠らせ給はざりけると、あはれに見奉る。

豊訳 命婦回宮、見皇上犹未就寝、觉得十分可怜、. . .

林訳 命婦回到宫中、看见皇上还没有休息、. . .

钱訳 命婦仰見皇上、可怜还没进大殿 . . .

朴訳 묘우부 (命婦) 는 키리쭈보 (天皇) 께서 아직까지도 주무시지
않은 채로 계시었던 것을,
마음속 깊이 애처롭게 느끼면서 우러러 뵈는 다.

用例7は原文「寝る」対し特殊敬語の「大殿籠る」を使用している。これは天皇に使用する敬語である。中国語は钱訳が命婦から天皇への敬意を表している（「仰見」は現代日本語の【仰ぎ見る】[動マ上一] ①上方に目を向けて見る。見上げる。②尊敬する。敬う（大辞林）。ここは②の意に繋がって

いよう)。注目すべきは朴訳で、太字傍線部にあるように「お眠りに (주무시지) なられていない (계시엇던)」と天皇に対しては二重敬語で表し、命婦の天皇への視線も「뵈는 다.」と敬意表現で訳出している。

用例 8 源氏物語桐壺巻 7 帝が追憶で見っていた絵と書

原文 このころ、明け暮れ御覧ずる長恨歌の御絵、亭子院（宇多天皇）のか、せ給ひて、伊勢貫之によませ給へる、やまと言の葉も、もろこしのうたをも、たゞそのすぢをぞ、まくらごとにせさせ給ふ。

豊訳 近来皇上晨夕披览的，是《长恨歌》的画册。……其中有著名诗人，伊势和贯之所作的和歌及汉诗。

林訳 近来皇上朝晚要观赏宇多天皇勅画的长恨歌图，上面有伊势和贯之题的画款，……歌咏生死
别离为题材的和歌及汉诗作为谈论的话题。

钱訳 朝暮看的，……伊勢、貫之、题咏的长恨歌画图、和歌、唐诗，……

朴訳 요즈음에는, 항상 보고즐기시는 長恨歌 (장한가) 의그림 (繪), 이세 (伊勢), 푸르유키 (貫之) 로
하여금 읊도록 헌신 와카 (和歌) 이든또헌 漢詩이든지, ……
(注「唐土의詩는 漢詩임」)。

用例 8 で注目したいのは敬意表現ではなく原文「もろこしのうた」（唐土の詩）の訳し方である。朴訳はハングルの中に「漢詩」と漢語で書いているが、注に唐土의詩는 漢詩임）のように記して説明している。中国語訳は钱訳以外は「汉诗」である。中国語では最も端的には“诗”あるいは“汉诗”とすれば広義としてはこれでよいであろうし現代の読者には逆にわかりやすいかもしれない。ただ钱訳だと「大和」（倭国）対「唐土」が鮮明になる。原文に記されているだけに「唐」をそのまま記してもよかったように考えられる。河添房江はこの場面の歌人伊勢の名に着目し『伊勢集』の構成から鑑み次のように「和と漢の融合」を解く^(注9)。

『伊勢集』では絵の場面ごとに玄宗皇帝や楊貴妃の心情を想定して、伊

勢が和歌を詠むという趣向なのである。ここでの『長恨歌屏風』とは唐絵と漢詩という組み合わせである唐絵屏風でも、大和絵と和歌の組み合わせの大和絵屏風でもない。和漢の混合した屏風である。(p34)

用例 9 源氏物語桐壺巻 8 源氏が父帝の御所にずっと住むようになる

原文 今はうちにのみ侍ひ給ふ。

豊訳 此后小皇子便常住在宮中了。

林訳 此后皇子就一直住在宫里。

钱訳 从此只在内里了。

朴訳 어린 皇子는 요즈음에는 宮中에만 계시는 것이다.

用例 9 は原文の「侍ひ」が天皇のおられる場への敬語（謙讓）、「給ふ」は皇子（光源氏）本人への敬意を表しており、第 2 節で言及した“複数方向への敬語”の例である。韓国語・朴訳のみ太字傍線部（試訳：おいでになった）と敬意が現れている。中国語は場所が既に御所という高貴な場所が記されている故に更に敬意表現は不要とみなし、敬語動詞は省略したということが考えられる^(注10)。

用例10 源氏物語桐壺巻 9 帝、外国からきた観相人呼び源氏の相を占わせる

原文 そのころ、こまうどの参れる、なかに、かしこき相人ありけるを、聞こしめして、・・・

豊訳 这时候朝鮮派使臣来朝觀了，其中有一个高明的相士。

林訳 这时，有一些高丽人来朝，听说有一位擅长的看相的，・・・

钱訳 皇上听得来聘的高丽人中，有个善能相面的・・・

朴訳 그러한 즈음에 朝廷에 참내 (参内) 하고 있는 高麗人중에 훌륭한 관상 (觀相) 을 보는

者が 있음을 키리쭈보 (桐壺) 天皇께서 들으시고、・・・

(注：「高麗人」는 여기서는 史實上에 있어서의 발해 (渤海) 의 国使를 가리킴)

用例10では朴訳のみ天皇への敬意表現がある（試訳：天皇におかれては（相人のことを）お聴きになって）。この個所で問題にしたいのは観相士の出身国をどう訳しているかということで、古注釈では頭注に「延喜のころ参れるは皆渤海の使ひにて高麗にはあらざれども、渤海も高麗の末なれば、皇國（みくに）にては元いいなれたるままに、こまといへりし也」注 8 p35とあるように、源氏物語が描く時代の渡来人は高麗国のことではなく渤海国となる。朴訳も渤海国のことを注している。中国語訳は「こまうど」のひらがな表記をそのまま漢字に当て注記はない。豊訳の「朝鮮」は中国語訳の中では異質となるが、謎の多い渤海国は地図上では中露韓の北の境界に位置し朝鮮半島北部になるので、「朝鮮」=現代中国語で朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）を指す、となると間違いではない。一方林訳・銭訳は現代の中国語訳の読者が高麗人=高麗国人と誤った解釈をしようともそれを厭わず、当時の実際の「渤海」を訳出しなかったということになる^(註11)。外国語の翻訳の際に、原文の書かれた時代の様相を忠実に訳そうとするか、それを読む現代の読者の立ち位置から訳出を生み出すか、翻訳のあり方に繋がる大きな問題を含んでいると言えよう。

用例11 源氏物語桐壺巻10 内親王は藤壺の局を与えられた。

原文 藤壺ときこゆ。

豊訳 她住在藤壺院，故称为藤壺女御。

林訳 四公主住在藤壺院 干是称她为藤壺女御。

銭訳 称呼藤壺。

朴訳 후지꾸보（藤壺）라고 하는 **분**입니다.（試訳：藤壺という**方**である）

（注：四の宮이 방을 바다서 살게 되었으므로, 이후 후지꾸보（試訳：藤壺）라고

불리워짐.（四の宮はこの部屋を頂いて住むことになったので、以後藤壺と呼ばれる）。^(註12)

用例11は同じように寵姫であった桐壺の更衣の局の紹介が「御つぼねは桐壺なり」に対し、先帝の内親王となると地の文に既に敬意が付くが翻訳をど

うこなしているかをみるために掲出した。桐壺更衣の場合は

豊訳 她住的宮院叫桐壺。

林訳 她所住的宮院叫桐壺, …

钱訳 宮院是桐壺。

朴訳 키리쭈보노코우이 (桐壺更衣) 의 방은, 키리쭈보 (桐壺) 이다.

となり敬意表現は中国語・韓国語ともに無い。つまり桐壺・藤壺への翻訳例を対照して見るに、韓国語朴訳のみが桐壺は後ろ立ての弱い更衣であり、それに対して先帝の内親王藤壺はいかに身分が異なるかを地の文で明確に示しているということになる。参考までに与謝野晶子訳を韓国語訳した『겐지이야기』(2007김난주(金蘭周) 訳김우천監修/全卷完訳)では「겐지의 처소는 숙경사입니다 (試訳: 更衣の局は淑景舎です)」「이분이 바로 후지쭈보 여어입니다. (試訳: この方が即藤壺の女御になりました)」であったので、朴訳のみの特徴とはいえ韓国語訳の敬意表現のあり方の問題として捉えるべきであろう。

用例12 源氏物語桐壺卷11 卷末 語り手の結びの言葉

原文 光る君といふ名は、こまうどのめで聞こえて、つけ奉りける、とぞ言ひ伝えたる、となむ。

豊訳 世人传说: “光华公子”这个名字, 是那个朝鲜相士为欲赞扬源氏公子的美貌而取的。

林訳 据说, “光君”这个名字是高丽国的人称赞源氏的美好而给取的。

钱訳 光君这个绰号, 相传还是高丽人爱他, 送他的称呼云。

朴訳 光君(히카루키미) 라는 이름은, 高麗人이 칭송하여 붙이신 것 이라고 지금까지

伝해서 있다 는 것 입니다 .

(試訳: 光君という名前は、高麗人が称賛して付けられたことであると、今まで伝えられてきた、ということです)。

金蘭周訳 빛나는 님”이라는 뜻의 히카루 겐지란 이름은 저 발해에서 온 관상가가 이런

겐지를 칭송하여 붙인 것 이라고 전해집니다.

(試訳: “光る君”という意の光源氏という名前は、あの渤海から来た

観相家がこういう源氏の君（の美質）を称賛して付けた、と伝えられています）。

原文の結びの言葉は古代からずっと不審がられていた。古注釈頭注「紫式部我が書きたるを人に知らせじと也。何の巻にも此の心あり」注 8 p53とあり、紫式部が伝聞を記し物語の作者であることを隠しつつ、「つけ奉りける」「とぞ言ひ伝えたる」「となむ」の三重構造で入れ子型の語り手構造になっていることが注目されてきた。なおここにはどの翻訳も敬意は現れていないが、豊沢の「公子」が人称としては敬意を感じさせる。更に「光」という漢字が元来“光荣”等賞賛を表す字でもある。

そして用例 2（桐壺巻冒頭）で考察し後でまとめると述べた“語り手”と“中国語の丁寧語”の問題であるが、巻末にも語り手が現れていることが伺える。冒頭の語り手は読み手（同じ貴族社会の人々）を意識し天皇への敬語を記しており、この巻末は今まで書いてきた物語は伝聞した話を記した体であることを「となむ」と記して読み手に納得させているわけだが、用例で示しているように 3つの中国語訳と韓国語の金蘭周訳は全て伝聞した旨を客観的に記した訳になっている。客観的という点では注 7 陳瑞紅の丁寧語の考察を想起させるが、この巻末は陳の用例とは逆に語り手が顔を隠しており、単なる叙述体として訳されている。

そうした中で、特筆すべきは朴訳である。以下に図解すると

것 이라고 (①ことであると) + 전해서있다 (②伝えられてきた)
는것 (③ということ) + 입니다 (である)

という形で入れ子型の語りの構造が訳出されていることがみえるのである。朴訳の様々な画期性の一端といえよう。

4. 終わりに 一日中韓の対比からみえてくるもの一

以上本稿では現代の中国語が源氏物語のような王朝小説をどのように訳したのかを、韓国語とも対照させつつ考察してきた。結論として以下のようにまとめられる。

①現代の中国語は一般的には敬意表現の少ない言語とされ、特に文語的表現

は消滅したとまで言われたが、皇帝や天皇や皇子等に対しては明確に使用されている。

- ②ただそれは翻訳によってかなり異なる。源氏物語においては最初の中国語訳である銭稻孫訳は最も敬意表現を多く使用し、また原文の世界を理解した上で訳出しているところがうかがえる（用例8 唐詩の問題など）。
- ③現在最も流通している豊子愷訳は、現代の中国（語）読者を意識した訳出がうかがえる（用例10 高麗の問題など）。
- ④源氏物語の“地の文”に表れている“語り手”の問題は、“読み手”を意識しているという点で現代語の丁寧語（丁寧文）にも繋がる部分がある。それが敬意表現からうかがえたので、中国語には文語表現においても丁寧語的な要素は存在するといえる。ただばらつきがあり形態としては大系化されてはいない。
- ⑤やはり絶対敬語を現代も有するとされる韓国語訳は敬意表現が多い。特に用例7、9、10のように敬語動詞が記される点が中国語訳とは異なる。また今回は中国語訳の考察を中心としたので簡略にまとめたが用例12で述べたように朴訳は継続して注視する画期的な韓国語訳である。

このようなことが現時点ではわかった。日中韓の対照研究は、特に文語体については数も希少で課題も多い。今後は更に用例を多く分析し継続して研究をしていきたいと考えている。

注

（注1） 越野優子（2017）「待遇表現訳出からみた日（中）韓対照研究—『源氏物語』桐壺巻からみた一考察」『詞林』62号、pp 1-16。本稿はこの拙稿の続編に位置付ける。

本稿は東アジア文化交渉学会・第10回年次大会（香港・香港城市大学）（2018.5.12）での口頭発表及び、物語研究会大会・自由発表（日本・真鶴）（2018.8.21-22）を基に作成した。二つの発表で司会及び質疑応答に参加して下さった方々に深謝する。

（注2） 例えば、宮岡弥生、玉岡賀津雄（2002）「上級レベルの中国語系日本語学習者と韓国語系日本語学習者の学習者の敬語取得の比較」『読書科学』46（2）、pp 63-71。

（注3） 権慧（2015）「中韓両国における村上春樹文学翻訳版本の比較研究：『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』を中心に」（『東京大学中国語中国文学研究紀要』18号等の一連の研究

- (注4) “地の文” “複数方向への敬語” が中国（中国語）に存在するかどうかであるが、地の文については中国語では固有名詞は無く、これを表すとすれば、“文学作品里的非会话部分”（試訳：文学作品内の会話ではない文章）となる。これは後に述べる「丁寧文」（中国語では“郑重文”）と重なる部分があろう。“複数方向への敬語”については、例えば中国で出版されている崔光兰等主編 2012『日本古典文法』（上海 外语教育与研究出版社）p181に、「特殊敬語」の欄にあり、「一 二方向に対する敬語 二方向に対する敬語は、一つの動作に対して、話し手（書き手）が動作主と動作を受ける人の両者に対して同時に敬意を表現することがある」と日本語で説明されている。同書には用例「（帝が源氏に）御簾のうちに入れたてまつり給ふ」（源氏・桐壺）が挙がっている。
- (注5) 藤堂明保、蘇徳昌、興水優、王鉄橋、彭國躍等の一連の中国の敬語における先学研究史。特に、蘇徳昌（1987）「人間関係と敬語」『日本文化研究所研究報告』23号、pp89-115 王鉄橋（1989）「言語と文化」2号、pp25-48。同（1990）「日中敬語表現と儒教文化」『言語と文化』第3号、pp17-33 彭國躍（1999）「中国語に敬語が少ないのはなぜ？」『月刊言語』28-11号、pp60-63 を本稿では参照している。
- (注6) 田中幹子、鄭寅瓏（2013）「銭稻孫訳『源氏物語』の特徴について（上）（下）」『比較文化論叢：札幌大学文化学部紀要』28号・29号に記されたものを使用した。この銭訳を拙稿2017に引き続き使用した理由は、入手困難な訳とされる点（田中2013）だが、本発表ではそれに付け加えて、「銭訳が日本語の訳文からではなく、自ら原文に挑み、自分自身の読解をしていることが、はっきりわかる箇所も散見した」（田中2013、29号、p74）とある点からである。源氏物語原文から翻訳した初めての韓国語訳と位置付けられる朴訳と同様、銭訳も原文にあたった最初の中国語訳だったとされるかどうか等を検証するためにもこの訳を使用した次第である。
- (注7) 陳瑞紅（2006）「日本語と中国語の敬語表現—吉本ばななの作品とその翻訳材料を題材に」『人間文化研究科年報』第21号、pp39-54。陳が引用しているのは彭國躍（2002）『近代中国語の敬語システム：「陰陽」文化認知モデル』白帝社。陳は現代中国語において丁寧語はまだ整然とは形式が確立されていないが、その要素は存在すると述べている（p46）。
- (注8) 北村季吟著『湖月抄』源氏物語の注釈書。この度は講談社1982版を使用した。
- (注9) 河添房江（2007）「第1章 いずれの御時にかの時代設定」『源氏物語と東アジア世界』日本放送出版会、p34
- (注10) 張培華氏（国文学研究資料館）は用例9の銭訳は中国語がこなれていないというご意見であったことを記しておく（2018.8.22）。
- (注11) 渤海が中国領か韓国領かで論争がある。「高句麗・渤海をめぐる中国・韓国の「歴史論争」克服のための基礎的研究」（研究代表者：古畑徹 基盤研究（C）研究課題／領域番号23520861：https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23520861/）など
- (注12) 注10の張氏は用例11の銭訳も中国語がこなれていないというご意見であったことを記しておく（2018.8.22）。

（このゆうこ：福州大学外国語学部日語系兼職副教授）